中津川(岩手県盛岡市)

木戸口聡子

中津川は岩手県盛岡市の中心部を流れている。川の畔には江戸時代の城の石垣が残っている。そして今でも,市役所,県庁を始めとする街の主要な施設がこの川の畔に作られている。

盛岡の冬は寒い。川の風は特に冷たく,身が凍りそうなほどである。河川敷の湿地帯や川の流れが穏やかな所には,氷が張っている。草原である川岸には,雪がうっすら積もっている。ところどころ,川の両岸に設置された遊歩道も,雪の下に隠れてしまっている。それでも,多くの人が川にやってくる。飛来してきた白鳥や鴨にパンの耳をあげる人。犬の散歩をする人。ジョギングする人。スケッチする人。中学生らしい恋人たちの姿。中津川の畔では,子どもからお年寄りまで,幅広い年代の人の姿をみることができる。

河川敷に降りると水音がさわさわと耳に心地よい。水はきれいに澄んでいて,川底の石がしっかり見える。川に落ちた木の枝の周りについた水が凍り付いていて,なかなか幻想的である。街の中心部を流れている割には川や河川敷に捨てられているごみは少ない。中津川の河川敷は,雪捨て場や,運動場,イベント会場,カキツバタ園などとして,一年を通して活用されている。

中津川には様々な生物も生息している。夏には鮎釣りを楽しむ人の姿が見受けられるし,秋には県庁所在地を流れる川で唯一,鮭を見ることができる。冬には,白鳥,鴨が飛来する。鰍も棲んでいるし,鷺や翡翠が魚を取っているのを見ることもある。河川敷で蛇が日光浴をしている時もある。

盛岡には,中津川の他にいくつかの川が流れているし,石巻で太平洋に注ぐ北上川のような中津川よりも大きな河川も存在する。かし,私にとって一番身近な川は中津川であった。小学生,中学生時代,毎日中津川を渡って通学していた。朝,よく橋から川を眺めていた。偶然鮭の交尾を目の当たりにしたこともある。秋の夕暮れ,夕日が川面に反射してとてもきれいだった。学校でも 20～30 分ほどかけて中津川に出かけたことがある。タオル片手にごみ拾いをしにいったこともあったし,理科の授業で水の流れと川岸の様子,動物や植物分布を観察しにいったこともあった。これらの授業は遠足も兼ねていて,目的を果たした後は決まって,川遊びを楽しんだ。中学校に進学した後も,中津川に川の水を採取しに行った。学校に戻ってからその水を顕微鏡で観察して,プランクトンの姿を探した。今でも時間があると散歩で中津川に出かける。

宮沢賢治,石川啄木など盛岡ゆかりの文人は多い。中津川の川岸には,彼らが詠んだ歌や詩の歌碑が設置されていて,風景に色をそえている。以下何点か紹介したい。

・岩手山　秋はふもとの三方の　野に満つる蟲を　何と聴くらむ　　啄木
・こどものころ　かれんな忘れな草の群落に遊んだ　中津川　深川紅子
　深川紅子は画家で,野の花を好んで描いた。中津川の畔には,彼女の作品を集めた「野の花美術館」がある。彼女に因んで,毎年初春,中津川の河川敷に,忘れな草の種が蒔かれる。
・たそがれて　行く人思ふはよしなしと　中津川へり　ひとりもどりつ　孤舟
　小田島孤舟は岩手県出身の歌人,教育家(高校の教師も勤めた),書道家で,「岩手歌壇の父」と呼ばれる人である。石川啄木に影響を与えたことで知られ,盛岡市内の様々な中学校の校歌の歌詞も作詞した。
・中津川や　月に河鹿(かじか)の啼く夜なり　涼風追ひぬ　夢見る人と　啄木
・ほんのぴゃこ　夜明げがかった雪のいろ　ちゃんがちゃが馬コ　橋渡ってくる　賢治
　注)ちゃんがちゃが馬コ=ちゃぐちゃぐ馬コのこと。盛岡市の伝統行事で,初夏,色とりどりの装束とたくさんの鈴をつけた 100 頭近い馬が,隣村の蒼前神社から盛岡八幡宮まで練り歩くというもの。
・中津川　流れ落ち合う北上の　早瀬を渡る夕霞かな　一禎
　石川一禎は,歌人啄木の父。寺の住職で,歌も詠んだ。

　現在の中津川は,両岸とも石積み護岸である。江戸時代からかけられていた橋の 1 つ,中の橋から下流のほうを眺めると,右手には城跡の石垣が,左手には石積みの護岸があって,とても美しい。しかし,このような風景を楽しめるようになったのは,さほど昔のことではないそうだ。高度経済成長期真っ盛りの 1960 年代後半,中津川の左岸は,治水のためコンクリートで固められた。が,市民から反対の声が上がったそうだ。中津川は何度も洪水をおこす川だったそうだ。それにもかかわらず市民たちは中津川に,そしてその景観に愛着を持ち続けていたのだ,という印象を受けたエピソードであった。

　中津川は私たち市民の生活の一部である。市内に水を提供している 5 つの浄水場のうち 2 つは,中津川から水を引いている。私たちは,川の様子の移り変わりによって季節の変化を実感する。春には,川岸の雪がとけ,野の草に花が咲く。山の雪解けの影響で水嵩が増える。川岸の柳の新芽がまぶしい夏には,釣り人たちが竿を振るい,子どもたちが水遊びをしている。鮭が力を振り絞って川を登ってくるのを見ると,秋だと思う。枯れ草の香り,川岸の鮭の屍骸,水面に浮かぶ白鳥や鴨の姿は,氷や雪と共に,冬の風物詩である。
　先人たちが歌に詠み,景観を守るために努力してきた美しい川とその景観,小さいころから慣れ親しんできた中津川を,これからはますます意識して大切にしていきたいと感じた。

参考文献

ウェブもりおか
http://www.city.morioka.iwate.jp/

盛岡タイムス Web News より

2006 年 8 月 6 日(日) 盛岡百景〉76　中の橋付近の中津川川原と岩手公園の風景

http://www.morioka-times.com/news/2006/0608/06/06080602.htm

「盛岡の命の川」NPO 法人もりおか中津川の会

http://www.u-keikaku.com/kawa/

「新訂 わたしたちの盛岡 社会科副読本」盛岡市小学校社会科研究会著,1996